

令和6年度全国教職員研修会 教育力向上委員会 研修プログラム

A. 領域「人間と社会」の講義の進め方

<p>研修プログラム テーマ</p>	<p>領域「人間と社会」の講義の進め方</p>
<p>研修プログラム 趣旨</p>	<p>社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会が発表した報告書の「介護人材に求められる機能の明確化キャリアパスの実現に向けて」の中で、新たに「求められる介護福祉士像」が示された。カリキュラムの全体像としては「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」から成り立っている。</p> <p>「人間関係とコミュニケーション」には、ICT化、チームマネジメントが含まれた。その教授内容をさらに進化させる為には、外国人介護福祉士の増加など日本の介護福祉士養成を取りまく社会環境が大きく変化していることを認識することが必要である。一方、介護福祉の革新と柔軟性を求められる時代だからこそ、介護福祉士の専門性の本質をとらえ、普遍的で重要なことを探求する活動は非常に重要である。</p> <p>「人間と社会」の領域のなかで、「人間の尊厳と自立」と「人間関係とコミュニケーション」は人間としての基盤となる部分といえる。では、介護福祉士の養成教育では、どのように教授されているのだろうか。また、課題や改善点は何だろうか。</p> <p>これらを踏まえてこの研修会を進め論議を深めたい。</p>
<p>登壇者名</p>	<p>「人間の尊厳と自立」の学習ポイント（オンライン）： 群馬医療福祉大学大学院特任教授 黒澤 貞夫 先生</p> <p>「人間関係とコミュニケーション」の学習ポイント： 龍谷大学短期大学部 教授 伊藤 優子 先生</p> <p>コーディネーター：群馬医療福祉大学短期大学部 白井 幸久</p>
<p>黒澤 貞夫 先生</p>	
<p>自己紹介</p>	<p>厚生省勤務；国立身体障害者リハビリテーションセンター相談判定課長、指導課長、東京都豊島区立特別養護老人ホーム施設長、岡山県立大学保健福祉学部教授、弘前福祉短期大学学長、浦和大学学長歴任（勤務先名は当時のものである。）</p> <p>現在：群馬医療福祉大学大学院特任教授、日本生活支援学会会長</p>
<p>内容趣旨</p>	<p>テーマ：「人間の尊厳と自立」の学習ポイント</p> <p>内容:このテーマは、現行のカリキュラムに沿って学ぶ。その学習過程で次のポイントに留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉における人間の尊厳と自立は、人権思想の歴史的源流にある。 2 我が国はこの人権思想を、法の理念として示している。人間の尊厳と自立は福祉サービスの基本的理念としている。 3 介護サービスは現実の生活ニーズに関わる。一方理念は人間の生活の目

	<p>的や行動の意味を客観的な概念としたものである。この現実と理念の関係が課題となる。</p> <p>4 自立は人間理解のうえからも重要かつ難しいテーマである。学習課題は理論的に学ぶか、あるいは事例から帰納的に理論をみちびくのかである。</p> <p>5 人間の尊厳と自立のテーマは人間理解の視点から学ぶ。このことは全人的、全体論的理解である。</p>
伊藤 優子 先生	
自己紹介	<p>特別養護老人ホームでケアワーカー、生活相談員等を経て、龍谷大学短期大学部等で介護福祉士養成教育や社会福祉士養成教育に携わる。</p> <p>2016年～2021年 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室に在籍、介護福祉専門官として、介護福祉士及び社会福祉士のカリキュラム改正等の業務に従事。</p> <p>2021年 社会福祉振興・試験センター勤務を経て、2022年より現職</p>
内容趣旨	<p>テーマ：「人間関係とコミュニケーション」の学習ポイント</p> <p>内容：当該科目は、次の2つを教育内容のねらいとしている。</p> <p>①対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得すること</p> <p>②介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養うこと</p> <p>これらの能力を習得させるにおいて、「留学生や社会人学生の受入れ等」授業を展開するにあたって、学生の多様化への対応という課題がある。また、介護福祉士には、「対象となる利用者の介護ニーズの複雑化、多様化、高度化への対応」や「外国人介護職員や介護助手等の多様な人材層によるチームケア」に対応することが求められており、その実践能力を養うために当該科目をどのように教授するのかが問われている。</p> <p>これらに応えるための前提として、介護福祉士養成教育における当該科目の位置づけやねらいを確認し、今日的な課題に対する展開を検討する。</p>